2022 年 5 月 20 日

JACET-Chubu Newsletter

一般社団法人 大学英語教育学会中部支部　No. 48

支部大会へのお誘い

支部長 今井 隆夫
（南山大学）

支部会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。2021 年度より担当させていただいております現執行部も 2 年目を迎えました。コロナ騒動に振り回されず、かつ、コロナ騒動で得られたオンラインという良い面も活用した支部運営を目指し、後半の 2 年目を役員の先生方にお助けいただきつつ、支部運営にあたらせていただく所存です。引き続き、どうぞよろしくお願い致します。現執行部は、メンバーの一部入れ替えと追加がございました。副支部長に安達理恵先生（椙山女学園大学）、事務局幹事に吉川りさ先生（名古屋工業大学）、会計幹事に藤田賢先生（愛知学院大学）は引き続きお願いし、新たに、事務局幹事に大瀧綾乃先生（静岡大学）と柴田直哉先生（名古屋外国語大学）に加わっていただき、6人体制で臨んでまいりますので、会員の皆様方のご協力を賜りたく存じます。

今年度も 6 月 4 日（土曜）にオンラインで支部大会を開催します。大会テーマを「国際交流とこれからの大学英語教育」とし、昨年同様、オンラインの利点を生かし、海外より Christiane Lütge 先生 (ミュンヘン大学)に基調講演をお願いしました。また、「プロジェクトベースの国際交流を通した外国語教育」というテーマでシンポジウムを企画しました。シンポジストには、若林茂則先生（中央大学）、中川右也先生（三重大学）、米澤由香子先生（東北大学）、藤掛千絵先生（南山大学）の 4 名をお迎えし、プロジェクトベースの英語教育の取り組みについてお話を伺い、考える機会にできればと思います。皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

目 次

支部大会へのお誘い　今井隆夫　1 頁

講演会報告 1
山田優 氏
「翻訳コンピテンスの教育と TILT および機械翻訳を使った英語教育の可能性」
大瀧綾乃　2 頁

講演会報告 2
森住衛 氏
「大学英語の授業に教養教育を ー改めてメタ言語能力育成の必要性ー」
木村友保　3 頁

研究会報告 (ライティング研究会)
「ライティングとライティング指導を研究対象とするライティング研究会」
木村友保　5 頁

書評
『英語教師がおさえておきたいことばの基礎的知識』（白畑知彦 著） 大瀧綾乃　7 頁

追悼
「池　稔先生・ヒサ子先生をしのんで」
田中幸子・田中春美　8 頁

事務局より　9 頁

講演会報告 1

2021 年度 第1回定例研究会 講演
「翻訳コンピテンスの教育と TILT および機械翻訳を使った英語教育の可能性」
山田優（立教大学 教授）
2021 年 12 月 11 日 [Zoom 開催]

AI 翻訳時代の今、英語教育を行うことの意義と英語教育の今後の可能性について深く考えさせられるご講演であった。まず、現代の外国語教育のパラドックスとして、「外国語教育」「プロ翻訳者養成」「機械翻訳（以下 MT）」の対立という形での問題提起があった。外国語教育では「正確性」を重視する傾向が、そしてプロ翻訳者養成では「流暢性」を重視する傾向があり、MT では「流暢性」が優れている。このように機械翻訳を日常的に使うことのできる生活の中で、外国語教育に翻訳を取り入れることの可能性として、山田優先生は TILT（Translation in Language Teaching）をご紹介くださった。TILT とは、外国語教育における「翻訳」の復活である。その背景として、母語を使わずに目標言語のみを教室で使うモノリンガリズム的教育に対する科学的根拠が欠如していることを挙げられていた。そのため、母語の活用や翻訳の活用を通して、母語と目標言語との比較をすることの重要性を挙げられていた。TILT は、Communicative Language Teaching のようなモノリンガリズム的教育とは異なる、新しい外国語教育の考え方であると言える。

そもそも「翻訳とは何か」「どのような定義で翻訳を行うのか」と山田先生は問いかけてくださった。そして翻訳とは、「正確性と流暢性を考慮したテクスト転換である」とご教示いただいた。正確性とは文の中の命題にあたる部分で指示的要素があり、流暢性とはモダリティ等の語用論的、テクスト的（情報構造、話法等）、形式的（詩的効果）要素がある。また、「翻訳ができることが、外国語教育の目標であっても良いのではないか？（Cook, 2010）」と唱える研究者もいるとのご紹介もあった。外国語教育としての翻訳は翻訳家の専門トレーニング翻訳とは異なる。外国語教育の中で行われる翻訳は、勿論、学習手段として行われ、4 技能にプラスした 5 番目の技能として捉えることができる。一方で、翻訳の専門家トレーニングで培うプロの翻訳力とは外国語能力にプラスアルファした能力であり、正確性だけでなく流暢性も求められる。TILT が目指す翻訳力（翻訳スキル）とは何かと追求すると流暢性を高めることであり、すなわち語用論、指示的、テクスト的、形式的要素を重視して教育すべきなのではないかというご提案をされていた。

AI 翻訳技術の発展についてもご講義くださった。そして AI 翻訳技術が発展する一方で、人が外国語を学ぶ意味（目的）は何なのかという点についても問題提起くださった。私たちは日常生活の中で、Google 翻訳等を活用し

成 美 堂 2022 年度 新刊のご案内
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-22
TEL 03-3291-2261 / FAX 03-3293-5490

Complete Communication Book 1 -Basic- ..... 2,530 円(税込)
Complete Communication Book 2 -Intermediate- ..... 2,530 円(税込)
Live Escalate Book 3: Summit ..... 2,750 円(税込)
Reading Palette Red -Basic- ..... 2,090 円(税込)
Reading Palette Green -Pre-Intermediate- ..... 2,090 円(税込)
Science Stream ..... 2,090 円(税込)
Strategic Reading for Global Information ..... 2,090 円(税込)
Global Pathways ..... 2,090 円(税込)
Good Grammar, Better Communication ..... 2,090 円(税込)
AFP World News Report 6 ..... 2,750 円(税込)
Meet the World 2022 -English through Newspapers- 2,200 円(税込)
A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC® L&R TEST
Book 1: Elementary ..... 2,420 円(税込)
BEST PRACTICE FOR THE TOEIC® L&R TEST
-Intermediate- ..... 2,750 円(税込)
Understanding the World Today ..... 2,090 円(税込)
Globalization: The Future of Japan and the World
..... 1,760 円(税込)

SEIBIDO
URL:https://www.seibido.co.jp
e-mail:seibido@seibido.co.jp

て一瞬で翻訳することが可能である。ポケトークがあれば、海外旅行でも言葉の壁が低くなる。このような MT 技術を活用できるようになるためには、私たち MT を使用する側にも「ことばに対するリテラシー」と「適切な英語力」が必要であるとご教示くださった。さらに、TILT を通じて翻訳要素を単に外国語の授業に取り入れるのではなく、機械翻訳を取り入れた外国語の授業が可能なのかということも考えておられた。機械翻訳をどう扱うのかという点は、今後の外国語教育が考慮すべき課題である。山田先生は機械翻訳を有効活用することの可能性を探っておられ、MT を外国語教育に活用するライティング活動を例としてご紹介くださった。原文を自動翻訳する前の原文の日本語を「プリエディット」して自動翻訳しやすいように整えたり、自動翻訳後の英文を「ポストエディット」して人間の手でチェックして修正を加えたりし、英語を書き直すというライティング活動である。学習者はこの活動を通して、翻訳前と後のエディットを行うことによって自動翻訳の精度を上げることができると実感できる。このように、機械翻訳を外国語の授業の中で有効活用し、学習者のメタ言語的能力を高めることができる可能性をご提示くださった。

AI 翻訳技術がさらに発展していくと考えられる時代における英語教育の目的は何か、また、このような技術を有効活用した外国語授業は何かを我々教員に問題提起いただき、大変重要な示唆をご提供いただいたと感じている。

大瀧綾乃（静岡大学）

講演会報告 2

2021 年度 第2回定例研究会 講演
「大学英語の授業に教養教育を
ー改めてメタ言語能力育成の必要性ー」
森住衛（大阪大学・桜美林大学名誉教授）
2022 年 3 月 5 日［Zoom 開催］

コロナ禍がまだ収まらない中、JACET 中部の第 2 回定例研究会もオンラインで行われた。だがこの講演会に関しては「オンライン」で行われたという感じを抱かせないほど、講師の該博な知識、誠実さ、情熱が講演会の間中、一人ひとりの参加者の心を捉えたと思う。講師は、JACET の元会長であり、「授業学」を提唱し、「授業学研究」を定着させた人物である。「授業運営」の専門家は授業を上手に運営できない場合が多いと聞くが、大学英語教育学会における「授業学研究」の創始者であり、その実践家でもある森住衛氏は、この講演会を、一つの「授業」として見事に実践してみせた。

筆者がまず感銘を受けたのは、講演者が定例研究会で行われたすべての研究発表を聞き、自分の講演を、各発表の肯定的コメントで始め、この日に行われたすべての発表が自分のこれから言おうとしていることと関係があると示す。こうすることで自分より前に発表されたすべての研究を今回の研究例会の取りをつとめる自分の講演会に収れんさせた。

続いて、自分が受けてきた授業および参観してきた授業の中で感じた問題点の 1 つを指摘し、具体的な例をもって説明を始めた。現在の授業は、あまりにも「規則を知らせ、これを覚えさせ、4技能で使えるようにすることに焦点を置きすぎている」。そして「中学校9教科のうち『英語科』が一番生徒の『なぜ』に答えない」と。たとえば、英語教師の中には a lot of は「たくさんの～」を意味するイディオムで「説明」などできないとし、「覚えればいいのだ」と生徒に伝えてしまう(tell)人がいる。そこでもう一歩進んで説明する(explain)ことを提案する。「一般の英和辞典で lot を引くと、その4番目か 5 番目に『一山』『一盛り』や一般に物がたくさんある状態なので『たくさんの～』となる」と。もう 1 つ例をあげよう。go という動詞は、その過去に went を使い、過去分詞には gone が使われる。「なぜ went か」という疑問を抱いた学生にはどう答えるのか。「go の過去形に went が使われたのは『補充法』が採用されたようだ」と説明する。「古英語の時

代（紀元 5～11 世紀中頃）では、go の前身である gān の変化形の過去形の部分に、もう 1 つ似通った語であるドイツ語系の wendan (=go, turn)の過去形である went をあててしまったのである。この理由はよくわかっていないが、推測するに、現代でも日常語に外国語の言葉や新しい言い回しを使うことを『カッコイイ』と考える人たちがいて、たとえば『面会の約束をした』というべきところを『面会のアポを取った』などと言うように、当時も went が新鮮な響きを持っていたのかもしれない」と。

もう 1 つの問題点はテスト問題に関することである。「次の 2 文は同じ意味を持っている。下線部を同じ意味になるように書き換えなさい」などという問題文に接することがあるが、森住氏は、たとえば must、have to、should という3つの表現を「同じ意味」と生徒に伝えることは「言語教育に対する冒涜」であるとまでいう。must「～しなければならない」という意味だが、（一説に（神の思し召しで）とあるくらい最も強制力が強い）という。have to は「（状況から判断すると）～した方がよい」という意味で強制力は must よりも弱い。そして should は「（できたら、今はそうではないが）～した方がよい」という意味で強制力は must よりも、また have to よりも弱い、という。そのため講演者は「英語に限らずどの言語も形が異なれば、意味も異なる」と理解することが必要であると力説する。

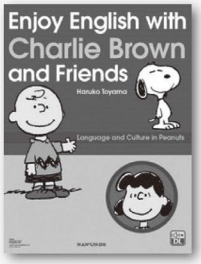
学校で教えられる英語と「異なる」という理由で、時に ain't が「不適切な英語表現」という人がいるが、森住氏はこの傾向にも注意する必要があるという。というのも、この表現が「黒人系アメリカ人が日常的に使い始めた語彙で、その機能は am not, isn't, aren't, don't, doesn't, wasn't, weren't, didn't など現在形と過去形の否定すべてを担い、人称や時制に係わらず『～ない』と『なかった』を合わせ持っている大変便利な言い方だからである」。

次に取り上げたい問題として「英語の授業では、知ること、覚えること、使うこと」に焦点が当てられていて、「考えること」がおきざりになっている傾向がある。たとえば、日本の文化では「何もありませんが、どうぞ」は「自然なことば」だが、それを英語に直訳すると There is nothing, but please help yourself となる。この表現は「英語では通用しない」と言うが、なぜいけないのか。「英語流の論理で言うと『何もなかったら食べられないではないか』となるからである」。英語は文脈の依存度が低い（low context）の言語なので、日本語のような文脈の依存度が高い (high context)の言語の論理が合わない。だがこのような「日本語独特の表現を使ってもよい」という考え方も存在することを忘れてはならないと講演者は言う。理由は3つある。1 つ目は、この表現には、日本人のいわば美意識—控えめの美学—が入っているので、これを世界の人に伝えたい。2 つ目は、自国の言語を「直訳」して伝えることは、これを使う人たちのアイデンティティを示すことになる。3 つ目は、国際補助語としての

南雲堂 2022 年度 新刊ご案内

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 361
TEL03-3268-2311／FAX03-3269-2486

Reading Links 3 2,310 円
Expanding Horizons (CEFR B1-B2) 2,860 円
Skills for Better Writing〈Intermediate〉2,200 円
Simply 400: Acing the TOEIC®L&R Test 1,980 円
Simply 500: Acing the TOEIC®L&R Test 1,980 円
Answers to Everyday Questions【Pre-Intermediate】2,200 円
Project English 2,530 円
The Wonders of Medicine 2,090 円
Everyday History 2,090 円
Enjoy English with Charlie Brown and Friends 2,530 円
＊価格は全て税込価格です。



南雲堂 URL: https://www.nanun-do.co.jp/
E-mail: nanundo@post.email.ne.jp

英語(Englishes)は、これを使う人たちの思考や感情も入れる「器」として機能すべきである。

講演者である森住衛氏にとってショッキングなニュースがあったという。東京医科歯科大学には教養学部があったが、それを東京外国語大学に委託したいというニュース。大学入学試験を民間業者に委託したいというニュース。さらには、英語教師は期限付き採用でまかないたいというニュース。これらすべてが英語教育を「役に立つか」という尺度で見つめた結果だと看破する。それに代わって「ためになるか」で見直すことを勧める。この考え方によると上に示したように「深層に隠れている文化的意味」を理解しようとするメタ言語能力の育成に通じ、その結果「物事の分析力の育成と客観視」「視野の拡大・深化」「気づき」「発見」という教養教育を提供することになるからである。そうなれば、たとえ将来英語を使わない人たちにも「ためになる」英語教育が実践できる。日本人英語教師の存在意義が明確となる。そして授業の中で「なぜ」という疑問を大切にすることによって、学習者と教授者の間に教育のシナジー効果を期待できるという。

William Ward は教師には4つのタイプがあると言う。次の4つのタイプである。
The mediocre teacher tells. The good teacher explains. The superior teacher demonstrates. The great teacher inspires. さて、英語教師森住衛氏はどのタイプの教師か。今回の講演会では good teacher, superior teacher そして great teacher であることを例証してくれたように筆者には感じられた。

＊森住衛氏のご厚意により、筆者に修正版講演ファイルが送られました。ご希望の方には無料で送付させていただきますので、遠慮なくお申し付けください。筆者のメールアドレスは kimuratomoyasu0113@gmail.com

木村友保（名古屋外国語大学）

研究会報告

ライティングとライティング指導を研究対象とするライティング研究会
The Writing Research

ライティング研究会では、英語で文章を書くこと、また英語で文章が書けるよう指導することに興味を覚える人たちが2カ月に一回程度、できるだけ多くのメンバーが参加できる日を設定して集まる。

「英語で文章を書くこと」に関しては、まずは人が文章を書かざるを得ない状況とはどのような状況であり、その状況下で書かれた文章にはどういう力が、また特徴があるのかを探る。ここでは必ずしも、文法的に正しい文章やコンテクストに合った文章だけを材料としない。また外国語である英語とか、母語である日本語とかの区別もあまり意識しない。より良い文章を書くために、現時点で一番多く指摘されているのが「対話者」の存在である。そしてどうも「よい文章」というものは、自分、または他者がその役割を担う「対話者」とのやり取りの中で生み出されるものであるようだ。

「英語で文章がかけるように指導すること」に関しては、最近の論文も積極的に参考図書として読んでいる。研究会のメンバーは高校であれ、大学であれ、全員が英語を教えている。そして多種多様な教育環境で英語を教えているが、全員がライティングの効果を信じている。たとえば、「ライティングが使用語彙の多様性を高める」とか、「プレゼン力を高めるためにもライティングは必要である」というようにライティングの効果を信じている。そしてライティング指導の究極の目標は学習者が自分の力でライティング力を高めていくことだと信じているが、どんな教育機関で教えようと「ライティング力を高めるには教師の支援は不可欠である」ということも信じ、その支援の仕方を模索している。

2021 年度の研究会は合計で5回しか行われなかった。そのうちオンライン研究会が4回、対面が1回である。8 月 26 日と9月11日はオンライン研究会。そして参加者は各研究会

とも2人だった。8 月の研究会では「ライティング指導」の中で、翻訳機の使用が剽窃に抵触するのではないか、という点で問題視された。またコロナ禍で「海外留学」が実質的に不可能な状態が続く中で、ネイティブ・スピーカーの授業の人気が上昇したという報告を受けた。また、この会員に「能楽堂」のブース案内文の翻訳の依頼があったという。会員には「ライティング」の実践は大いに勧めたい。9月には、授業そのものは TOEIC 対応だが、The Japan Times のアルファという新聞記事を利用して5分ほど「ライティング指導」を盛り込んだという報告を受けた。中心は英文記事の要約だが、そこに自分の意見も加えられる場合もあり、その意見に対し、教師と学生の間に「対話」が生まれているとの報告がされた。11 月 27 日に唯一、対面研究会が行われた。会員の一人は、ヴィゴツキーの研究をもとに「思考力を高める」、「読む側の負担を軽減する工夫」をするライティング指導の在り方を模索している。また他の会員は研究が順調に進み、自分が今在籍している博士課程で「博士論文」を書く資格が与えられたことが紹介された。さらに、オンライン授業によるライティング指導の一例が紹介され、これ（「テーマ型内容中心教授法のライティング使用語彙幅の効果について」）を中部支部の第二回定例研究会で発表することになった。またもう一人の会員は、ライティングそのものの実践例として自分の大学の論集に投稿した論文をもとに「道義的正義と政治的得策のレトリック―アヘン戦争をめぐる英国議会のグラッドストンとパーマストンを中心に―」という発表を同研究例会で行うことになった。そして、3 月 5 日に予定されていた春季定例研究会での発表のために、2 月 21 日と 22 日の午後 30 分程度を使い、オンライン研究会（発表の予行演習）が行われた。発表時間は短かったが、発表を聞いた参加者から発表後メールでそれぞれの発表者に適切なコメントや助言がなされた。

2022 年度も意外な幕開けとなった。コロナ禍は一旦「終息していく」と思われたが、オミクロン株の出現で新規感染者の数が爆発的に増し、愛知県もまん延防止等重点措置を2回延長した。また、ウクライナではロシア軍による侵攻が続いている。そういう中で、大学英語教育に携わる私たちも、国際社会の一員として、世界に発信できる、また発信すべきライティングの在り方を模索したい。新年度のテーマは「日本人にとって英語で書くとは何を意味し、日本人のために英語のライティング指導をする意義は何か」という問題を考えてみたい。ライティング研究会にご興味のある方はぜひ以下の二人のいずれかとコンタクトをとってください。

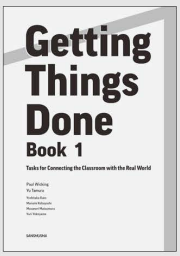
代表：木村友保（名古屋外国語大学名誉教授）副代表：佐藤雄大（名古屋外国語大学）
連絡先：
kimuratomoyasu0113@gmail.com
t-sato@nufs.ac.jp

木村友保（名古屋外国語大学）

コミュニケーション・タスクのアイデアとマテリアル
教室と世界をつなぐ英語授業のために
加藤由崇 / 松村昌紀 / Paul Wicking 編著
横山友里 / 田村 祐 / 小林真実 著
A5 判／並製　264 ページ
ISBN978-4-384-05940-3
定価 3,080 円（本体 2,800 円＋税）

三修社
〒 150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-2-22
TEL 03-3405-4511
https://www.sanshusha.co.jp

【関連テキストのご案内】
タスクで教室から世界へ［ブック1］



Paul Wicking / 田村 祐 編著
加藤由崇 / 小林真実 /
松村昌紀 / 横山友里 著
A4 判／並製
96 ページ
全 24 課
ISBN978-4-384-33510-1
定価 1,870 円（本体 1,700 円＋税）

書評

『英語教師がおさえておきたいことばの基礎的知識』（白畑知彦 著, 大修館書店）

白畑知彦先生（静岡大学 教育学部）による最新刊『英語教師がおさえておきたいことばの基礎的知識』（2021 年 大修館書店）についてご紹介したい。本書は、教室で外国語として英語を教えている先生方や将来英語の先生として働きたい大学生、大学院生を対象とし、英語を教える際に「日本の教室で英語を教えるとは何なのだろうかと深く考えるヒント（p.ｖ）」を与えることを目的として書かれている。そのような目的を聞くと、どうやって英語を教えるかのハウツー本ではないかと思われるかもしれない。しかし、本書はそうではなく、白畑先生ご自身がこれまでの研究者そして教育者としての人生を通して考えてこられた「英語を教えるために教師はどのような姿勢でいるべきか、どのような知識を持つべきか」といった英語教育、教師教育に対する熱い想いと信念を感じることのできる書である。白畑先生はご自身の想い、考え方を次世代の英語教育に繋げていくためにご執筆されたのだと筆者は実感しており、是非英語教育関係者に読んでいたきたい1冊である。

本書では、英語を教えるために重要な3つのこととして、「英語力を身につけること」「教え方を工夫すること」「ことばに関する基礎的で広範囲にわたる知識を身につけること」を挙げている。特に3番目の「ことばに関する基礎的で広範囲にわたる知識」については、本書でページを割いている。英語教師が「学習する英語と母語である日本語についての知識」「言語学的な基礎知識」「ことばがどのように習得されていくのかについての知識」を持つことがどれほど重要であるかということが本書で強調されており、英語教師として持つべき知識であるということが分かる。

本書は3部構成で、1 部「ことばに関する基礎的知識」、2部「ことばの習得に関する基礎的知識」、3部「教室での第二言語習得の基礎的知識」からなる。1部「ことばに関する基礎的知識」では、「ことばは人間の宝物」（p.30）であり、「ことばを使用するとは、人間が人間であるということの証」（p.10）であると述べているように、私たち英語教師が教えている「ことば」とは一体どのようなものか、人間にとってどれだけ重要なものであるのかということを、世界の言語や現代英語の特徴、英語の歴史、英語圏のバリエーション、英語の音声を通して示している。例えば、英語教師が英語の歴史について知識を持つことで、ことばは絶えず変化し続けていることが分かる。「ことばは生きている」ことを教師が知識として持ったうえで英語を学習者に教えるのと、知識として持たないで教えるのとでは、教師の「ことば」に対する考え方や想いがどのように授業に反映されるかという点で違いが出てくるだろう。同様に、教師が現代英語と日本語との相違や類似について知識を持ち、授業で少しの時間でも話すことができれば、学習者は「ことば」を客観的に見ることができ、英語に対する理解も向上するだろう。

1部「ことばに関する基礎的知識」における大変興味深い記述として、「『英語ではこのようなことば遣いをする』という規範の元は何なのだろうか、何をもって正しいことば遣いと決めるのか」（p.72）というものがある。確かに辞書や文法書には「正しいことば遣い」が載っており、私たち英語教師も常に参照している。では、(a)This is just between you and me. が正しい文で(b)This is just between you and I. は誤っているとするなら、どうやって(a)は正しく、(b)は誤りであると説明するのだろうか。本書では、実際には歴代アメリカ大統領やイギリス首相も公に(b)between you and I を使用したことがあると書かれている。このような例を通して白畑先生は、英語教師として「正しいことばの遣い方」を鵜呑みにするのではなく、ある表現がなぜ「正しい」のか、あるいは「誤り」なのかを考え、ことばに対する知識と考え方を深めていくべきだというメッセージを伝えたいのだと筆者は受け取った。

2 部「ことばの習得に関する基礎的知識」

では、人間がどのように母語を獲得し、第二言語を習得するのかという点に焦点を当てている。教師が言語習得に関する知識とそれに対する考え方を持つことによって「こころの柔軟性（ゆとり）」（p.109）が出て、英語を教える際に反映されると白畑先生はお考えである。そして 2 部では、ヒトのことばの面白さを体感いただける。すべてのことばは「併合」「階層的句構造」といった普遍性を持ち、人間の脳の中には言語獲得を助けてくれる言語獲得能力が存在すると仮定する、チョムスキーによる普遍文法を支持する立場から、言語習得の奥深さを大変分かりやすい言葉で説明している。人間は「併合」や「階層的句構造」を持つことばを操るからこそ、複雑な思考が可能であると述べ、英語教師はその「ことば」を教えるという、人間にとって大変重要な役割を担っていることを再認識させてくれる。このような言語専有の能力を仮定せずとも言語は獲得できるのではないかという主張に対しても、白畑先生の立場から反論されており、興味深い議論となっている。

最後に英語教員を目指す人たちへとして、白畑先生よりメッセージが述べられている。本書の内容を通して一貫し、言語の特徴や言語習得、教授法に関するさまざまな主張に対して、英語教師一人一人が自身の考えを持つことが重要なのだと感じることができる。そのようなリッチな知識と自身の考え方があってこそ、英語教師は日々の指導に創意工夫をすることができるのである。また、自分の考え方をより深めるためにも、さまざまな学会に参加して視野を広げていくことが大切だと述べられており、英語教師として常に成長しなければならないという白畑先生からの熱い想いを受け止めた。

白畑先生は筆者の修士・博士課程の指導教員であり、大学院生時代に日常的に私たち院生にご教示くださった、ことばの奥深さや英語教師が持つべき知識が本書には凝縮されている。そして、白畑先生ご自身が日ごろから体現してこられた英語教師としてあるべき姿を本書から学ぶことができる。

大瀧綾乃（静岡大学）

追悼

池 稔先生・ヒサ子先生をしのんで

JACET 中部支部設立当時、評議員としてご尽力くださった池稔先生が 2020 年 9 月にご逝去（享年 92 才）されたことを、つい最近まで知らずに申しわけなく思っております。

池先生は実に 48 年もの長きにわたり英語教育に専念され、最後の 32 年間を愛知大学で教えられました。1999 年に定年退職された後も、ご自宅などで青少年に英語を教えられるなど、英語を教えることが本当に楽しくてたまらないような先生でした。

また、先生は腹部手術をされましたが、健康維持のため 1 日 1000 メートル泳ぐことを日課にされており、ハワイで研修や学会に出席された時も、「今から泳いできます」と嬉しそうに話しておられた笑顔が懐かしく思い出されます。

［ベルクテスト・オンライン］
VELC Test® Online
Visualizing English Language Competency Test Online
VELC テストにスマホ、タブレット、PC で受験可能なオンライン版が登場しました。
是非、デモ版をご体験ください。
詳しくはこちら
VELC 研究会事務局（株式会社金星堂内）
東京都千代田区神田神保町 3-21（〒101-0051）
電話 03-3263-3828 / FAX 03-3263-0716
e-mail info@velctest.org　https://www.velctest.org/

奥さまのヒサ子先生も JACET の研究企画委員を務められ、45 年間英語教育に専念されました。最後の 33 年間は 1999 年に定年退職されるまで藤田保健衛生大学で英語を教えられました。お二人の退職後はヒサ子先生が毎日稔先生をプールまで車で送っておられました。ヒサ子先生も 2021 年 8 月にご逝去されました（享年 89 才）。

池先生ご夫妻のご冥福を心からお祈りするとともに、残されたご親族の上に豊かな祝福がありますように。

2022 年 3 月

元 JACET 研究企画委員 田中幸子

中部支部役員顧問 田中春美

掲示板

『JACET 中部支部紀要』第 20 号への掲載論文の投稿（学術論文、研究ノート、実践報告、書評）を募集します。奮ってご応募ください。

締切: 2022 年 9 月 20 日
刊行予定: 2022 年 12 月
掲載料: 刷り上がり 1 ページにつき、1,000 円
問合せ: JACET 中部支部事務局（紀要担当:柴田直哉）

投稿方法等の詳細については中部支部ホームページでご確認ください。

中部支部紀要編集委員会

事務局より

◆ 新入会員のご紹介

2022 年 1 月から 2022 年 4 月までの中部支部所属新入会員は以下の方々です。（敬称略、入会順）

小田 節子（金城学院大学）
間地 悠子（中部大学(大学院生)）
ホール ジェレマイア（名城大学）
山田 敦子（桜花学園大学(非常勤) ）
Madarbakus Naheen（名古屋商科大学）
竹内 美都（中部大学(非常勤)）

◆ 2022 年度中部支部役員（敬称略）

顧問： 倉橋洋子（東海学園大学名誉教授）
田中春美（南山大学名誉教授）
吉川寛（中京大学）
理事・支部長：今井隆夫（南山大学）
副支部長：安達理恵（椙山女学園大学）
事務局幹事：吉川りさ（名古屋工業大学）
事務局幹事補佐：大瀧綾乃（静岡大学）、柴田直哉（名古屋外国語大学）
幹事支部会計担当：藤田賢（愛知学院大学）

支部研究企画委員（50 音順）
安達理恵（椙山女学園大学）、石川有香（名古屋工業大学）、今井隆夫（南山大学）、大石晴美（岐阜聖徳学園大学）、大瀧綾乃（静岡大学）、大森裕實（愛知県立大学）、岡戸浩子（名城大学）、鎌倉義士（愛知大学）、木村友保（名古屋外国語大名誉教授）、倉橋洋子（東海学園大名誉教授）、小宮富子（岡崎女子短期大学）、佐藤雄大（名古屋外国語大学）、塩澤 正（中部大学）、柴田直哉（名古屋外国語大学）、下内 充（中部学院大学）、白畑知彦（静岡大学）、杉浦正利（名古屋大学）、鈴木達也（南山大学）、地村みゆき（愛知大学）、藤田 賢（愛知学院大学）、藤原康弘（名城大学）、三上仁志（中部大学）、吉川 寛（中京大学）、吉川りさ（名古屋工業大学）、梁 志鋭（豊橋技術科学大学）

支部紀要編集委員会
委員長：大石晴美
委　員：石川有香、岡戸浩子、下内　充、白畑知彦、杉浦正利、藤原康弘、三上仁志

◆ 2022 年度支部大会のお知らせ

第 37 回中部支部大会を 2022 年 6 月 4 日にオンラインにて開催いたします。研究発表の他、基調講演として、Christiane Lütge 先生（ミュンヘン大学）をお招きし、お話しいただく予定です。なお、シンポジウムを企画しました。シンポジストには、若林茂則先生（中央大学）、中川右也先生（三重大学）、米澤由香子先生（東北大学）、藤掛千絵先生（南山大学）を講師としてお招きし、プロジェクトベースの英語教育の取り組みについてお話しいただく予定です。どうぞ奮ってご参加ください。

なお、第 1 回支部総会も同時開催いたします。総会資料は当日オンライン上で配布いたします。本資料の内容は理事会にて審議・承認を得ており、報告事項となります。

支部大会の申し込み先は、JACET 中部支部 HP をご覧ください。

◆ 2022 年度講演会・定例研究会のお知らせ

2022 年第 1 回定例研究会・中部支部講演会を 2022 年 11 月 27 日（日）にオンラインにて開催いたします。また、第 2 回定例研究会を 2023 年 3 月 11 日（土）にオンラインにて開催します。詳細は JACET 中部支部ホームページに掲載予定です。

◆ 2022 年度 JACET 国際大会のご案内

第 61 回国際大会は 2022 年 8 月 24 日(水)～26 日(金)にオンラインで開催されます。
大会テーマ
「デジタルトランスフォーメーションのグローバルな進展における言語文化教育の再設計」
“ Redesigning of Language and Culture Education in the Global Process of Digital Transformation”
詳細は JACET 大会ホームページをご覧ください。

◆ 住所変更届提出のお願い

支部会員のみなさまに、紀要や Newsletter などの郵便物をお届けできない事例が増えています。お手数ですが、転居の際には、JACET 本部事務局と中部支部事務局の両方に、住所変更届をご提出ください。詳細は、以下のサイトをご覧ください。
・JACET 中部支部ホームページ
http://www.jacet-chubu.org/

◆ ニューズレターは会員の皆様のフォーラムです。ご意見、ご要望等は事務局までメールでお送りください。投稿も歓迎いたします。なお、メール件名は【JACET 中部】とお書き添えください。

JACET 中部支部事務局
〒466-855 愛知県名古屋市昭和区
御器所町
名古屋工業大学 吉川りさ研究室内
E-mail: yoshikawa.lisa@nitech.ac.jp

JACET 中部支部ホームページ
http://www.jacet-chubu.org/

JACET-Chubu Newsletter No. 48

2022年5月20日発行

発行者：一般社団法人 大学英語教育学会
中部支部（代表）今井隆夫
編集者：大瀧綾乃、杉浦正利、
吉川りさ